

EB-Z8050W

セットアップガイド



- 目次 -

同梱品の確認	2
いろいろな設置方法	3
設置しよう	4
コンピューターと接続して投写しよう	5
他の映像機器との接続	12
説明書の構成	13
インジケーターの見方	14
便利な機能	16



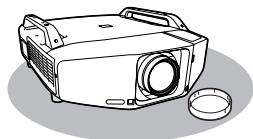
411762900

同梱品の確認

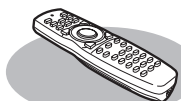
下記のチェックリストをご覧ください、同梱品を確認してください。

万一、不足や不良がありましたら、お手数ですがお買い求めいただいた販売店までご連絡ください。

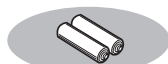
☐ プロジェクター本体



☐ リモコン



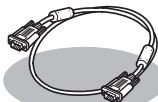
☐ 単 3 形乾電池



☐ 電源ケーブル
(日本国内専用 約 3m)



☐ コンピューターケーブル
(約 1.8m)



☐ パスワードプロテクトシール



☐ フットカバー
(4 枚)



☐ Projector Software For
Meeting & Monitoring



ドキュメント類

- | | |
|--|---|
| ☐ 安全にお使いいただくために / サポートとサービスのご案内 | ☐ セットアップガイド (本書) |
| ☐ Document CD-ROM | |
| ☐ お客様情報 + 正式保証書発行カード + 返信用封筒 | |

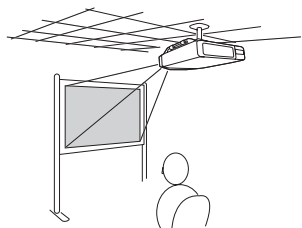


本製品は重いので、1 人で運ばないでください。
開梱や移動の際は 2 人以上で、ハンドル部分を持って運んでください。

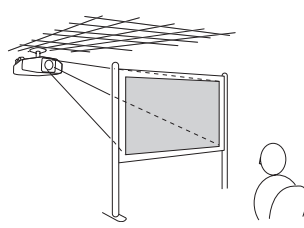
いろいろな設置方法

本機は、次の例のように 90° 単位で水平、垂直方向に投写できますので多様な場所に自由に設置できます。

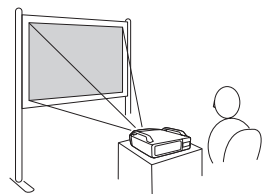
天吊りして正面から投写する



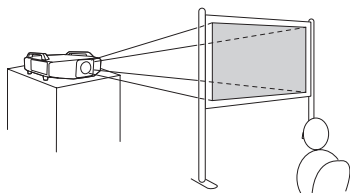
天吊りしてリアスクリーンへ裏側から投写する



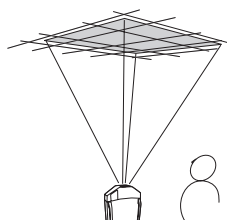
正面から投写する（フロント投写）



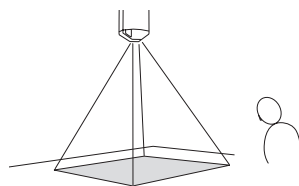
リアスクリーンへ裏側から投写する（リア投写）



真上に投写する



真下に投写する



警告

- 天井への取り付け（天吊り設置）や真上、真下に向けて投写する工事は、特別な技術が必要となります。正しく工事が行われないと、落下・転倒によりけがや事故の原因となります。
お買い求めいただいた販売店または本書に記載の連絡先にご相談ください。☞ p.15
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下し事故やけがの原因となります。
天吊り設置や天吊り金具の調整に際しては、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。
- 天吊り設置時は、必ずハンドル部分にワイヤを掛ける等の落下防止対策を行ってください。

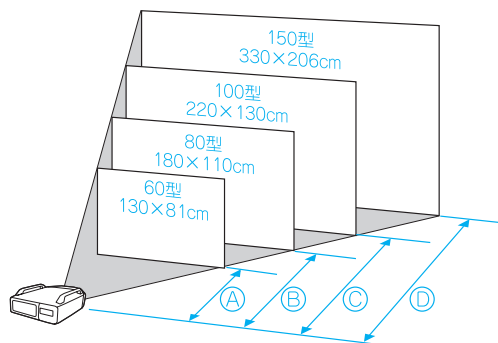
注意

本機を『取扱説明書』で指定している以外の角度に設置して投写しないでください。加えて、天地逆さまにして底面を上に向けて投写することはできません。また、設置する角度により環境設定メニューの設置角度を正しく設定してください。☞『取扱説明書』
決められた角度以外で設置をしたり、環境設定メニューの設定が正しくないと、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。

1 設置しよう

スクリーンに映像が最適な大きさに映るように設置してください。

本機のレンズからスクリーンまでの距離により映像のサイズが変わります。図中の値は、最短投写距離の目安です。投写距離の詳細値 ● 『取扱説明書』「スクリーンサイズと投写距離」



① 217cm

② 292cm

③ 368cm

④ 555cm



本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

壁際に設置するときは、吸気口・排気口から壁までの間隔を50cm以上離してください。

左図の値は標準ズームレンズを装着して、ズームを最大、レンズシフトを中央に設定し 16:10 スクリーンに投写するときの値です。ズームやレンズシフトの状態により値が変わります。

本機をスクリーンに対して平行に設置すると、最も投写映像が鮮明です。本機をスクリーンの正面に設置できないときは、レンズシフトで映像を投写する位置を調整できます。

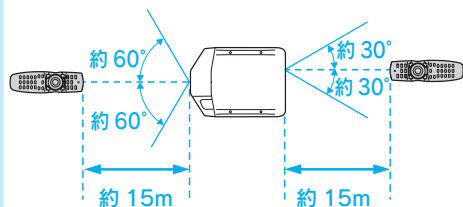
● p.9 「レンズシフトの調整範囲」

● リモコンの準備 ●

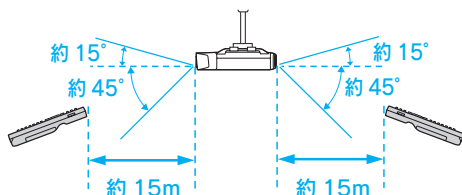
リモコンをお使いになる前に同梱の電池をセットしてください。

● 『取扱説明書』「リモコンの電池の交換方法」

操作可能範囲（左右）



操作可能範囲（上下）

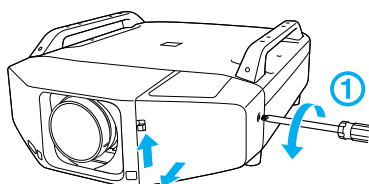


2 コンピューターと接続して投写しよう



漏電事故防止のため、接地接続(アース)を行ってください。アース線(接地線)を取り付けない状態で使用すると、感電・火災のおそれがあります。アース線の取り付け/取り外しは、電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。

●インターフェイスカバーの取り外し●

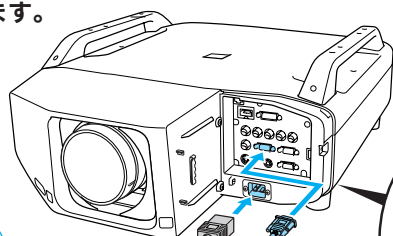


① 固定ネジをゆるめます。

② スイッチを押し上げたまま、カバーをまっすぐに引き抜きます。

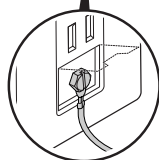
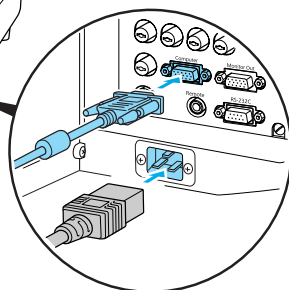
●コンピューターとの接続●

① 電源ケーブルを接続します。



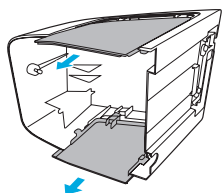
(同梱品)

(同梱品)

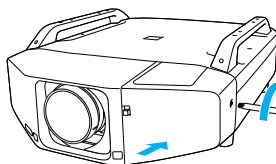


② コンピューターケーブルを接続します。

●インターフェイスカバーの取り付け●



- ① 接続したケーブルを上に出すときは上側のふたを、下に出すときは下側のふたを取り外します。



- ② カバーをガイドに沿って装着します。
- ③ 固定ネジを締めます。

※取り外したインターフェイスカバーのふたは必要となることがありますので保管願います。

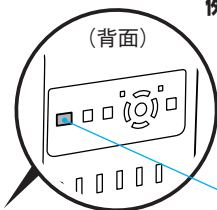
●投写開始●

- ① レンズカバーを取り外します。



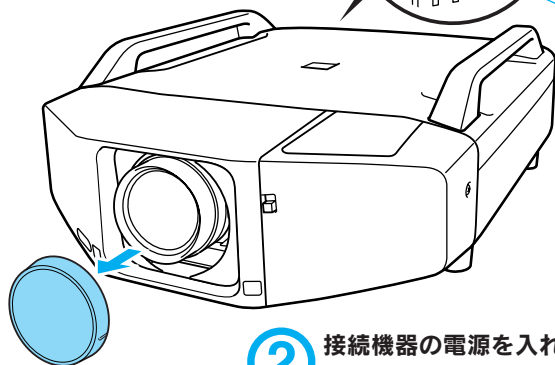
投写中はレンズをのぞかないでください。

- ④ ノートタイプのコンピューターをお使いのときは、映像信号の出力先を切り替えます。
例：エプソンの場合は **[Fn] + [F8]**

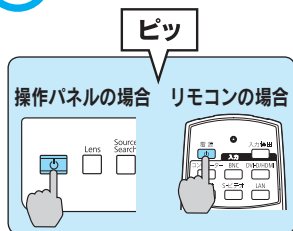


(背面)

- ③ 本機の電源を入れます。



- ② 接続機器の電源を入れます。

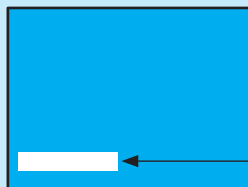


操作パネルの場合

リモコンの場合

●映像が投写されないとき●

投写画面左下の表示（下図の枠囲みの部分）が、接続した入力端子名と一致しているか確認します。



入力ソース： **コンピューター**
映像信号が入力されていません。

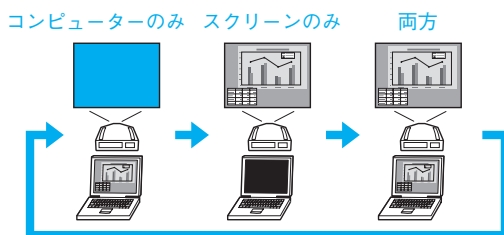
■投写画面の左下の表示が一致しているとき

コンピューター側で映像信号の出力先を切り替えます。●コンピューターの『取扱説明書』

切り替え後、しばらくすると投写されます。

出力切り替えの一例					
エプソン	Fn + F8	東芝	Fn + F5	Macintosh	ミラーリングの設定、またはディスプレイの検出を行う。OSによっては、 F7 で切り替えることができます。
NEC		lenovo/IBM	Fn + F7		
Panasonic	Fn + F8	SONY			
SOTEC		DELL	Fn + F8		
HP	Fn + F4	富士通	Fn + F10		

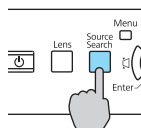
コンピューターによっては、次のように出力切り替えのキー操作を行うたびに表示状態が変わるものもあります。



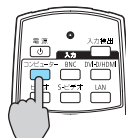
■投写画面の左下の表示が一致していないとき

入力ソースを「コンピューター」に切り替えます。

操作パネルの場合



リモコンの場合



●投写状態を調整するには● (はじめて設置してお使いになる方へ)

フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する方法を説明します。

調整は操作パネルの  またはリモコンで行います。

操作パネルの  を押すたびに以下の順で調整が行えます。

リモコンで調整するときは  (7)、 (8)、 (9) で直接調整できます。

Lens
 / フォーカス
 (9)

■ピント(フォーカス)調整



調整:   または 

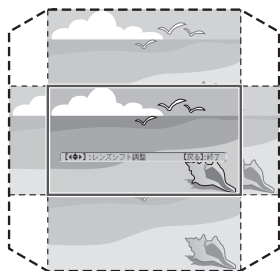
調整終了:  または 

Lens


レンズシフト
 (7)

ズーム
 (8)

■レンズシフト調整

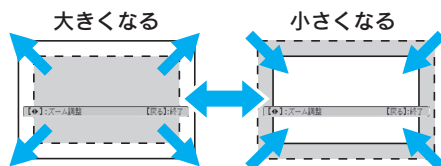


調整:     または 

調整終了:  または 

詳細説明  p.9 「レンズシフトの調整範囲」

■ズーム調整



調整:   または 

調整終了:  または 

Lens

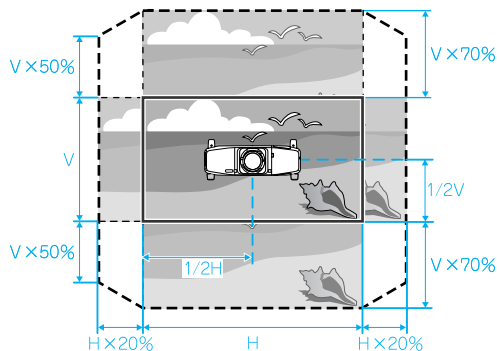



ポイント

接続している映像機器から映像信号を入力しているときは、その映像が投写されます。映像信号が入力されていないときは自動的にテストパターンが表示されます。

■ レンズシフトの調整範囲

スクリーンの正面に本機を設置できないときや映像が下すぎるときは、レンズシフトを使い下図の範囲内で映像の位置を上下左右に移動できます。



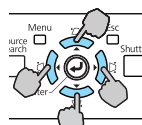
左図の太い枠線は基準投写位置を示しています。
(レンズシフト中央時)

左図の点線は基準投写位置から調整可能な移動範囲を示しています。

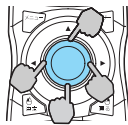
映像の位置を上下、左右の両方とも最大値まで移動させることはできません。

例) 映像を左または右いっぱい
シフトしたときは、上下には画面
の高さの 50% まではシフトでき
ます。映像を上または下いっぱい
シフトしたときは、左右にはシフ
トできません。

操作パネルの場合



リモコンの場合



ボタンを押し続けると連続して移動します。
上下左右とも、レンズシフト位置が中央に来ると移
動が止まります。さらにレンズをシフトしたいとき
は、一旦指を離して、再びボタンを押します。

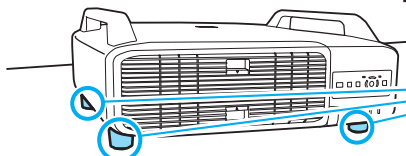
※ レンズシフトを上下、左右とも中央に合わせたときがもっとも鮮明な映像とな
ります。

■映像の台形ゆがみの解消

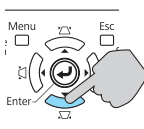
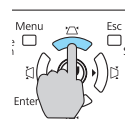
水平傾斜の調整



机上設置のときは、フロントおよびリアフットで本機の水平方向の傾きを調整します。

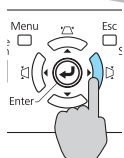
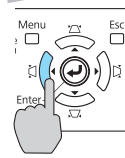
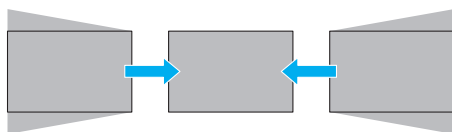


タテ方向の補正



※ 本機の上下方向の傾斜角度が約 30° までであれば補正できます。

ヨコ方向の補正



※ 本機の左右方向の傾斜角度が約 20° までであれば補正できます。

正確に台形補正を行うときは、Quick Corner で行うことをお勧めします。

👉『取扱説明書』「Quick Corner でゆがみを補正する」



ポイント

タテヨコ補正は、レンズシフト位置を以下の状態にして行ってください。レンズシフト位置が以下と異なるときは正しく補正できません。

- ・左右レンズシフトを中央に合わせる。
- ・上下レンズシフトを最上、または最下に合わせる。

ズームの調整値によっては正しく補正できないことがあります。
また、補正を行うと投写画面サイズが小さくなる場合があります。
設置の際は投写距離にご注意ください。

●電源を切り終了する●

- ① 接続している機器の電源を切ります。
- ② リモコンまたは操作パネルの  を2回押します。
- ③ 「ピッピッ」と鳴ったら、電源ケーブルを抜きます。
- ④ レンズカバーを取り付けます。

天吊り設置していてレンズカバーを取り外したままで使用する場合も、レンズカバーは再輸送時に必要となりますので保管願います。

※ 終了後すぐに電源を入れ直したときは、投写までの時間が通常より長くなります。

※ 電源を切った直後に電源を入れる操作を繰り返さないでください。頻繁に電源オフ/オンを繰り返すと、ランプ寿命が短くなるおそれがあります。

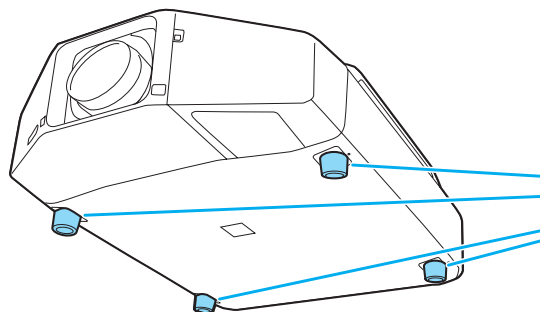


ポイント

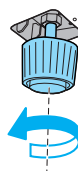
ダイレクトシャットダウンに対応していますので、会議室など電源を集中管理している場所では、 を押さずに電源ケーブルを抜いたり、ブレーカーを落として電源を切ってもかまいません。

●フットの取り外し方●

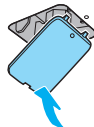
本機を天吊り設置したときは、フットを外して、同梱のフットカバーを取り付けるとスッキリとした外観となります。



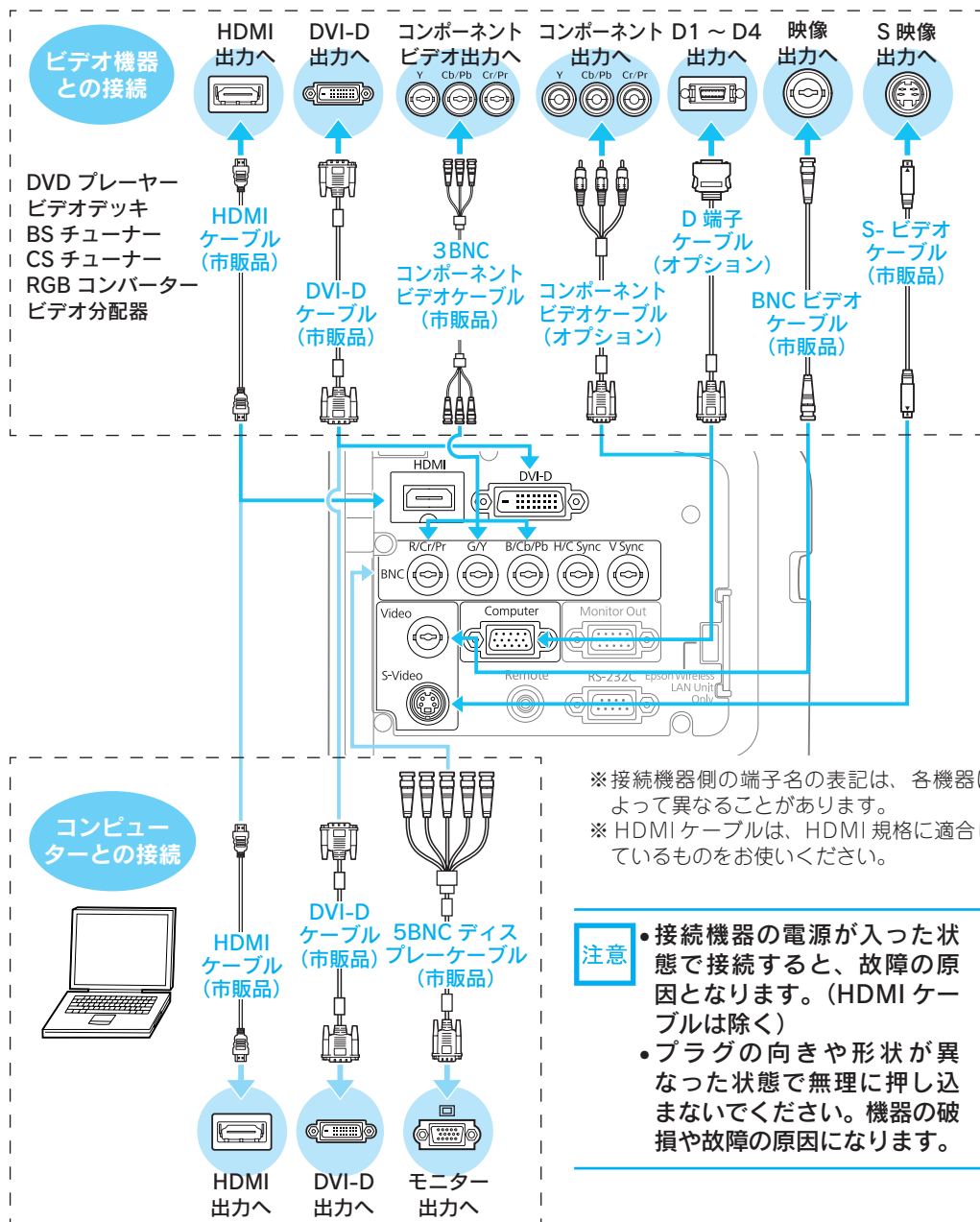
①



②



他の映像機器との接続



接続する機器が特有の端子形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続します。

説明書の構成

本機には次の説明書が添付されています。以下の順番でお読みください。

本機を安全に正しくお使いいただくために、添付のマニュアルをよくお読みください。不明な点をいつでも解決できるように、その後はすぐに見られる場所に大切に保存してください。

①



『安全にお使いいただくために / サポートとサービスのご案内』

本機を安全にお使いいただくための注意事項や、サポートとサービスのご案内が記載されています。本機をお使いいただく前に必ずご覧ください。

②



『セットアップガイド』(本書)

本機を使い始めるまでの準備（同梱品の確認・設置・コンピューターやビデオ機器との接続）と投写開始時の基本操作について記載しています。

③



Document CD-ROM

●『取扱説明書』(PDF)

便利な機能、環境設定メニューの使い方、困ったときの対処方法、お手入れの方法などについて記載しています。

●『EasyMP Monitor 操作ガイド』(PDF)

添付の Projector Software CD-ROM に収録されている「EasyMP Monitor」の使い方を記載しています。

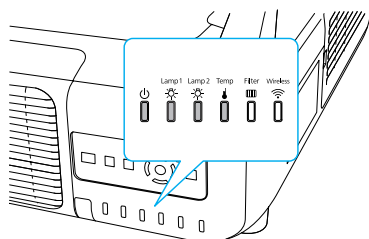
※ Document CD-ROM には、PDF 版の『安全にお使いいただくために / サポートとサービスのご案内』と『セットアップガイド』も収録されています。

● Document CD-ROM 内の説明書の見方 ●

コンピューターの電源を入れ、CD-ROM ドライブに Document CD-ROM をセットします。

Document CD-ROM に収録されている PDF マニュアルのバージョンは PDF1.4 です。この PDF マニュアルをご覧いただくには、Acrobat Reader5.0 以上または Adobe Reader が必要です。

インジケータの見方



詳細は 『取扱説明書』 「困ったときに」

: 点灯
 : 点滅
 : 消灯

■ 正常動作時の インジケータの状態

 オレンジ	スタンバイ を押すと投写を開始します。
 オレンジ	ネットワーク監視準備中または、クールダウン中 すべてのボタン操作ができません。(最大約 20 秒)。
 緑	ウォームアップ中 を押しても無効になります (約 30 秒)。
 緑	投写中 通常動作中です。

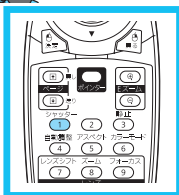
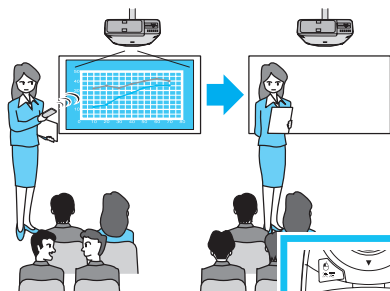
■ 異常 / 警告時のインジケータの状態

赤 赤 赤 	内部異常	電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。
赤 赤 	ファン異常 センサー異常 冷却システム異常	
赤 赤 赤 赤 	オートアイリス異常 シネマフィルター異常 シャッター異常 電源系異常 (バラスト)	
赤 赤 	内部高温異常 約 5 分間そのまゝの状態ですタ ンバイ状態になるのを待ちます。	次の 2 点を確認してください。 ・ 壁際に設置しているときは場所を移動します。 ・ エアフィルターの掃除または交換をします。
赤 赤 	エアフィルター風量低下異常	
赤 オレンジ 	高温警告	
赤 オレンジ 	エアフィルター風量低下	

                      
--

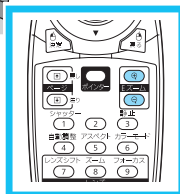
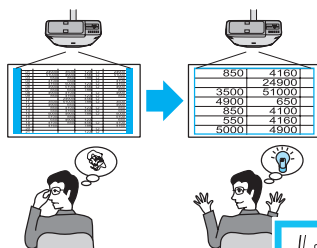
便利な機能

シャッター



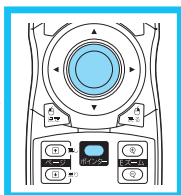
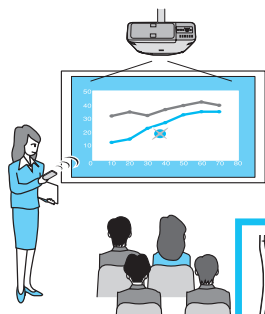
スクリーンの映像を完全に消します。聴衆を話しに集中させたいときや、ファイルの切り替え操作などを見せたくないときに使います。

Eズーム



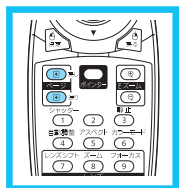
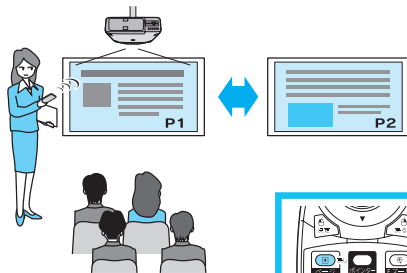
グラフや表の細目などを拡大して見せたいときに便利です。

ポインター



ポインターで映像を指し示し、どこを説明しているかを明確にしたり、注目させるときに使います。

スライド切り替え (PowerPoint のスライドショー実行時)



オプション品のワイヤレスマウスレシーバー使用時に、このボタンを押して投写中のPowerPointのスライドを次に送る / 前に戻すことができます。

便利な機能を搭載しています。詳細は 『取扱説明書』